

市民との協働により日本一しあわせなまちへ

市議会3月定例会が2月26日から3月16日まで開かれ、議案の審議に先立ち、久喜市長は平成28年度の施政方針を表明しました。

「人口増に向けて結果を出しNEXT STAGEへ」をテーマに、「秩父市経営方針」を市民とともに実践していくとの決意を述べました。

平成28年度 最重要事項

①市役所本庁舎等の建設

秩父市役所本庁舎および秩父宮記念市民会館の本体工事では、市民を守る防災拠点、郷土の誇りとなる芸術文化創造拠点として建設する本施設が、100年先まで市民共有の貴重な財産として活用されるよう、市民、市議会のご意見を尊重し、今後も十分な検討と協議を重ねながら事業を進めます。

市民会館開館準備事業では、市民の皆さんとプレイイベント等を開催し、開館後の取り組みをPRします。新しい市民会館が、地域の文化の殿堂として魅力的な事業を展開し、市内外の多くの方が集い、にぎわいのある地域づくりの一端を担っていただけるよう管理運営計画に基づき諸準備を進めます。

②広域水道事業への積極的支援

本年4月にスタートする広域水道事業を強力に支援します。

全国的に、年々厳しさを増す水道事業を取り巻く環境は、秩父地域も例外ではなく、「大幅な人口減少（少子・高齢化）」による収益の減少と「施設・管路の老朽化」による費用の増大という、2つの大きな問題を抱えています。

そこで、資金、人材、施設、水資源などを共有化し、技術面・経営面それぞれの基盤の強化を図るため、水道広域化による施設の共有化（統廃合）は非常に大きな効果が得られるものと期待しています。さらに、国の交付金を活用し、強靱な水道システムを構築することで、「安心で安全、おいしい水道水を安定供給する」という水道の使命を未来永劫、持続していくための礎とします。

③地域医療体制の強化・地域包括ケアシステムの実践

秩父地域の医療においては、救急医療体制の維持と産科医療体制の充実が急務と考えています。

救急医療では、秩父広域市町村圏組合へ、救急医療施設費負担金を支出するとともに、「ちちぶ医療協議会」と連携し強力に支援します。

医師の確保では、新専門医制度による研修医募集を目指し、市立病院では、非常勤の医師が診療している脳神経外科等の常勤医師の確保に向け、大学病院等と交渉を続け、診療機能の充実を図ります。

産科医療では、秩父地域内で出産ができる1診療所への産科医師や助産師の派遣を継続・拡充し、安心して出産できる体制を支援するとともに、さらに市立病院内の産科開設に向けた取り組みに努めます。

市立病院の医療機器の設備強化では、新システムの導入や装置の更新などを行い、患者の負担軽減とサービス向上につなげます。

地域包括ケアシステムの推進では、圏域ケア連携会議での協議を進めながら、市立病院に設置した秩父保健医療圏域の「ちちぶ在宅医療・介護連携相談室」の機能充実と在宅患者受け入れ用ベッドの活用を進めます。また、住み慣れた地域で、人生の最期まで自分らしい暮らしを続けることができる

仕組み、「ちちぶ版地域包括ケアシステム」の構築を進めます。

福祉の充実については、平成28年度の新たな事業として、「地域サロン活動」を積極的に支援し、地域の中で支え合う組織づくりを積極的に働きかけます。

また、生活困窮家庭の子どもへの支援や生活保護受給者への就労支援なども積極的に取り組みます。

介護保険事業では、国の制度改革により、地域支援事業において、単身高齢者や高齢者世帯への生活支援の充実、元気な高齢者の社会参加や地域で支え合う体制づくりを推進します。

子ども子育て支援では、「子ども子育て支援事業計画」の着実な実行と、地域情勢の変化に対応した取り組みを進めます。また、「秩父市立保育所再編計画」に基づき、保護者等と協調し、円滑な対応を図ります。

市民の健康づくりでは、「がん検診」の受診率向上を目指し、健康教育を行います。

母子保健事業では、乳幼児とその親を対象に発育や療育におけるさまざまな問題に対する相談事業の充実を図ります。

特定健康診査では、健康長寿を実現するため、生活習慣病対策の柱として実施している「特定健診・特定保健指導」について、受診率のさらなる向上を目指します。

④おもてなし観光の推進

民泊や外国人誘客の環境整備では、公共交通機関との連携の強化と利用促進により、秩父地域全体への観光客倍増を目指します。

また、秩父まつり会館のリニューアルや公衆・観光トイレの適切な維持管理を進めます。

⑤企業誘致と地元企業の応援・セメント跡地の有効活用の提言

圏央道が埼玉県内で全線開通した機会を捉え、恵まれた自然環境、地震や災害に強い、秩父市の優位性を強みにPRし、さらに空き用地等への企業誘致を積極的に展開してまいります。

また、秩父地域雇用対策協議会や関係機関と連携した、若者の定住促進事業の推進や、秩父市イメージキャラクター「ポテくまくん」を活用した地域経済の活性化を目指します。



有害鳥獣農作物被害対策では、捕獲活動に加え、農作物を守るた

めの適格な対策や指導を行います。

農業経営者等の支援では、農業従事者の支援とともに、耕作条件の不利な地域を支援し、営農活動の継続と地域の活性化を図ります。

⑥秩父ブランド育成への取り組み

ウイスキー・日本酒・ワインなどの酒類、イチゴ・ぶどうなどの果物、カエデ樹液製品、秩父銘仙など全国に誇れる秩父ブランドの育成に、民間との協働により取り組みます。

⑦環境ビジョンへの積極的な取り組み

森林資源を活用した地産地消の持続可能なバイオエネルギーの循環システム構築、ICTを駆使した「森林資源有効活用拠点づくり」の推進、さらには、子どもの頃から森や木に触れ、学び、木を生活の中心に置く「木育」を積極的に進めます。

全国の国立公園を保有する市が加入する「国立公園 関係都市協議会」定期総会や「巨木を語ろう 全国フォーラム」を開催し、森林の保護・再生の機運を盛り上げます。

再生可能エネルギー等導入事業による環境教育では、西小学校に太陽光発電パネルおよび蓄電池を整備し、子どもたちの環境学習に活用します。

森林林業・木材産業の振興では、秩父市産木材のPRおよび利活用を進め、西武秩父仲見世通り複合

型温泉施設や2020年東京オリンピック・パラリンピックに使われる新国立競技場の建設に際し、秩父材の利用を要望します。

⑧中心市街地の再開発

埼玉県事業の「本町・中町道路拡幅事業」に合わせ、歴史を感じさせ、魅力ある目抜き通りを創造します。また、秩父神社周辺、番場通り、東町通り、御花畑駅周辺、西武秩父駅周辺を、新庁舎・秩父宮記念市民会館を中心に、将来設計を立てるとともに、西武秩父駅から秩父神社へ、人の流れをつくる誘導策を検討します。

平成28年度の新たな事業として、新たな集客や空き店舗の活用、商店街の賑わい創出などを目指し「高校生によるチャレンジショップ事業」を実施します。高校生が商店経営に挑戦し、自ら生産した製品を販売する取り組みを通して、「流通」を学びます。

⑨新教育委員会制度のもと基礎学力の向上のための大改革

私、市長が積極的に教育委員会に関わり、総合教育会議をさらに充実させます。また、未来を担う子どもたちの基礎学力の向上、とりわけ英語学習を強化します。

ICTを活用した教育推進事業では、市内小学校1校をモデル校とし、大型テレビやタブレット等を配備し、児童の学習意欲の向上、基礎・基本の確実な定着、思考

力・判断力等の育成を図ります。教育環境の整備では、引き続き小中学校の普通教室へのエアコン設置工事を行います。

⑩秩父版C CRC（生涯活躍のまち）とコンパクトシティへのチャレンジ

先進的な取り組みとして、姉妹都市豊島区と秩父市ならではのC CRCにチャレンジし、流入人口の増加を目指します。

コンパクトシティへの取り組みでは、点在する公共施設を旧大滝中学校に集約する、「小さな拠点」を整備します。分散しているさまざまな生活サービスや地域活動の場などをつなぎ、生活を支える新しい地域運営の仕組みを作ること、健康で安心して暮らせる地域を目指します。

重点施策	
～久喜市長が任期中に必ず成し遂げると定めた10項目～	
1	雇用対策の強化
2	医療・福祉の充実
3	基礎学力の向上、知徳体の調和・慈しみ合う心の醸成
4	「環境立市ちちぶ」のさらなる推進
5	地域経済の活性化、第6次産業の確立と秩父銘仙の再興
6	訪れたいくなる秩父を目指して
7	安心・安全なまちづくりの推進
8	強いライフラインの確保
9	より親しみやすい市役所づくり
10	公共施設の見直し（ファシリティマネジメント）と適正な財源確保の推進